

令和元年8月15日発行

RIKKO SEKAI No.1082 力行世界 令和元年8月15日発行 (1)

2019年
8月号

年4回発行(1. 4. 7. 10月号)

No.1082

(学)日本力行会

力行世界

R I K K O S E K A I



(春の会館生バス旅行・忍野八海)

創立1897年1月1日



目次

会館生バス旅行…………… 2・3	ウェルカム・パーティー…………… 10
第32回ラボ泊ホームステイ…… 4・5	力行国際交流サロン「茶道交流会」 …………… 11
りっこう幼稚園だより…………… 6・7	
りっこう学童クラブ…………… 8・9	留学生、移住、会館関連記事…………… 12

会館生バス旅行



「しのびの里」の入口にて

6月29日（土）、会館生22名と日本語ボランティアスタッフ3名とご家族6名、職員3名と家族1名、旅行会社の担当者1名の37名で、山梨県の忍野村へ日帰りバス旅行に行ってきました。

当日は、朝7時45分に食堂に集合、2名程、体調を崩し不参加でしたが、皆、ほとんどが集合時には受付を済ませ、管理人のブルーノさんに見送ってもらい、予定時間の8時過ぎには出発する事ができました。

行きのバス車内は、中央道に入った辺りで、恒例のDVD映画「リメンバー・ミー」を鑑賞しながら、休憩の談合坂SAにはほぼ定刻に到着、トイレ休憩をして、最初の目的地である「忍野八



お釜池

海」にもほぼ定刻通りに到着しました。

はじめに、入口の水車小屋の所で記念撮影、生憎のお天気で、小雨が降ったり止んだりでしたが、国の天然記念物である「忍野八海」は、富士山の伏流水に水源を發する湧水池で、その水の透明度や生き生きと泳ぐ魚の姿には、皆、大変、感動し、写真を撮ったり、日本人観光客に質問したりしている様子が見られました。自由散策の時間が終わり、出発の時間に近づくと、戻った順にバスに乗り、全員が揃った所で、次の目的地である「しのびの里」へと移動しました。



銚子池

10分程で到着し、入口の門の所で記念撮影、庭園、建物と内装と全てが和の世界、反対に遊びに来ている観光

客の人達は、忍野八海もそうでしたが、日本人よりも外国人が多く、そのギャップに驚かされました。予約していた「忍者ショー」は、役者さん達その技に観客一同が感心し、ジョークを交えたショーは、とても盛り上がりました。その後、自由行動になると、足湯にのんびり浸かる人、忍者衣装を着て、手裏剣体験や、アスレチックで遊ぶ子供達と会館生達、忍者屋敷のからくりもとても本格的で、楽しく過ごす事が出来ました。



鏡池

渋滞を考慮し、早目に出発、その後、近くの「道の駅」に寄り、各自、お土産物を迷いながら購入している姿が見られました。帰りも続きのDVD映画上映、1作目が終わり、2作目は、「メリー・ポピンズ リターンズ」を鑑賞しました。トイレ休憩は、石川PAで10分程取りました。途中、事故渋滞もあったので、到着は、予定10分前の18時20分。バスを降りる際に、参加の会館生達、ボランティアスタッフの方から、「とても楽しかったです。ありがとうございました。」と声を掛けて頂き、皆様の思い出作りが出来、大変、嬉しく思います。又、日頃の感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

それから、最後になりましたが、会館生のTierney Dylanさん(武蔵大学・アメリカ・男子)の感想文をご紹介します。



ちびっこ忍者参上

"On Saturday June 29th, the Rikko Kaikan dormitory took a bus trip to Mount Fuji. I was excited to attend because I have never around Mount Fuji before. The trip started at around 8 in the morning and the bus ride was very relaxing. The morning was very foggy, making it hard to see in the mountains, but I personally think that added onto to the enjoyment of the busride because it made everything look like a horror movie. When we arrived at a rest stop we had about an hour to look around. There were many traditional Japanese snacks as well as delicious street food. The next destination was the Shinobi Ninja Village and that was a very enjoyable experience being able to see the Ninja show, as well as eat a buffet after the show. After both of those we all had time to walk around and enjoy the various areas of the ninja village. We took one more rest stop and finally started to head back to the dorm. Overall it was a very enjoyable and fun trip that I am very glad I attended and it makes me want to go back to Mount Fuji as soon as I can!"



バスに乗車前



集合写真撮影前



忍者の気配



アスレチック体験



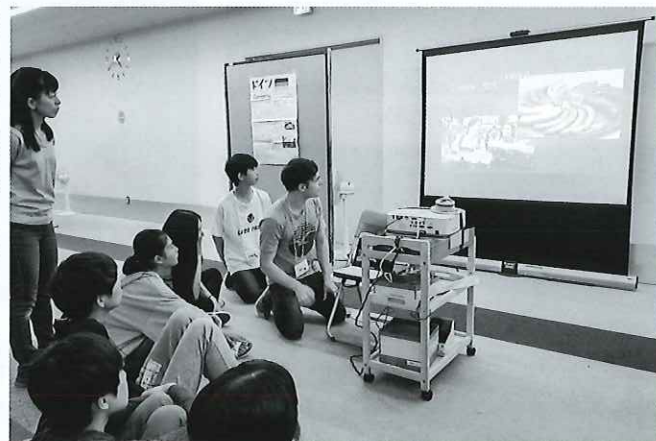
「いただきます」と忍者のポーズで

第32回 ラボー泊ホームステイ

今年もラボ・パーティー主催の交流会に、中国・女子3名、ベトナム・女子2名、オランダ、南アフリカ・女子各1名、タイ、ドイツ・男子各1名の9名が参加致しました。

皆、とても楽しく心温まる体験をさせて頂き、素敵な思い出が作れた事を伺い、職員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。誌面をお借りし、お礼を申し上げます。

参加者の汪奕文さん（早稲田大学・中国・女子）より、感想文を書いて貰いましたので、ご紹介させていただきます。



母国の紹介（ドイツ）

I firstly signed up for the home stay activity because I want to have a taste of Japanese life, but I am actually quite nervous that day meeting my host family for I cannot speak Japanese at all and their English does not seem so good. Thanks for the Labo association's carefully designed games and introduction of each person that I felt relaxed a bit. Besides, I should say that home-made food by each family are really good. Also, I meet a volunteer Naoki there, who is not a host yet we become really good friends later.

After the warming up party, we go home with each family. Unfortunately, my family is reserved, and I feel extremely nervous that I am going to such a quiet family for a night. The father seems to be serious, who is one of the few people did not join the final picture together. I think he thought the home-stay to be a mistake for his family and did not welcome me. Arriving at home, we play cards with kids together. The mother is really nice, who tried so hard to talk with me using her poor English. The father played music while we are playing cards. After showering, the mother shared me and kids waffle. It is interesting because Chinese kids are usually not allowed to eat sweet before sleeping. The bathtub in their home is really nice, an automatic one. The second day, we went to a science museum, after which we made dessert at home. The dessert is so good that I will definitely do it again back home. The father gradually becomes nice, and I find out that he is actually really patient and nice, but still lacking of words.

Both kids are very cute, the elder one loves hand craft, and the younger one loves dessert and fruits. I heard of that the couple are at quite different ages, which at first surprises me. But later I realize that it is usual for Japanese to get married at around 35, while it is usual for Chinese to get married at 25. There are lot of interesting things happened in the two days, which consists one of the most interesting activity in my Japan life. So, I strongly recommend you to step out of the comfort zone and give the homestay a try!



母国の紹介 (タイ)



母国の紹介 (中国)



りっこう幼稚園だより



春の遠足

すみれ組 寺尾夏枝

5月17日、日差しの眩しい良いお天気の中、大型バスで年少・年中組は親子、年長組は子どもたちのみで川口グリーンセンターへ遠足に行ってきました。

年長組の子どもたちは「ゆりぐみはお友だちと先生だけで行くんだよ!」と、自分たちが大きくなったことを感

じ、そのことが自信へと繋がっている様子がとても伝わってきました。年少組の子どもたちは初めて行く遠足に期待の気持ちを膨らませ、年中組の子どもたちは今年の体験を思い起こしながら心待ちに当日を迎えました。

当日は、いつもの園庭とはまた違った遊具を親子で楽しむ姿や、お友だち同士一緒にお弁当やおやつを頂いたりしながら、お家の方同士のコミュニケーションも深められている様子が伝わってきました。また現地を走っているミニSLに笑顔いっぱいに乗っている子どもたちが、通りすぎていくアスレチックコーナーや昼食を頂く広場に向かって手を振り、それに



えて手を振り返すお友だちやお家の方々の姿に温かい雰囲気を感じることができました。

芝生広場にも立ち寄った年長組は、何の遊具もない芝生だけが広がる広場でのおもいきり走り回ったり、鬼ごっこをしたり。寝転がってみると「何かチクチクしてくすぐったい!」「ふかふかして気持ちいい!」などと、その自然を思う存分味わいました。新しいクラスになり始めて出かけた遠足。これから少しずつお友だちとの交遊関係を深めながら、その関わりと結び付きがより深いものへとになっていってくれることを願っています。



家族参観

もも組 江田莉久海

5月の爽やかな陽射しの中、子どもたちにとって初めての行事、家族参観を行いました。お家の方に似顔絵のプレゼントをすることを子どもたちに伝え、「プレゼントだからナイショだよ。」とお話するとワクワクした表情へと変わっていき、絵を描くと「こんなかおだよ。」と言って描いていたり「おんなのこだからピンクにする!」と台紙の画用紙を選ぶ子どもたちの姿がありました。

家族参観当日、歌や手遊びをした後、お家の方と一緒になんでもバスケットゲームをしました。お家の方に抱っこをしてもらい席を移動したり、鬼にな

ると何を質問しようかとお家の方と一緒に考えている姿があり笑顔で楽しんでいました。その後、絵のプレゼントを「ありがとう。」と言いながら渡すとお家の方からは「わあー」と歓声が上がりました。子ども達からは嬉しいような恥ずかしいような表情をしていました。「お母さん」の歌を歌うとお家の方も体を揺らしながら温かく見守っている姿がありました。

帰りの支度を子どもたちが「できるよ! みてて!」と自分で身支度する姿を見

て我が子の成長を感じているようでした。

初めは少し緊張している子どもたちでしたがお家の方との触れ合いを楽しんでいくうちに緊張もほぐれてきたようでした。

園での姿や子どもたちの成長を感じられる時間をお家の人と共有でき、温かなひと時を過ごすことができました。



親子体操

すみれ組 牛田千遥

6月15日(土)に、礼拝堂で親子体操を行いました。事前にクラスでおうちの方の絵を描く時には、「ん～パパはヒゲがあるんだ!」や「眼鏡をかけてるから眼鏡も描こう」などと思いつきながら、子どもたちは今ならではの表現で絵を描いている姿がありました。また「いつパパくるの?」や「あと何回寝たら絵プレゼントする?」と親子体操の日を、心待ちにしている様子がありました。『すてきなパパ』の歌も、「うちのパパ強いんだよ～」と思いつきながら歌ったり、「パパのうた歌いたい」とおうちの方にプレゼントするのを待ち遠しく思っていたようです。待ちに待った当日は、いつもと違った雰囲気の中かで緊張している子、お父さんとの登園で嬉しさが溢れている子と様々な姿がありました。い

びを一緒に行いました。一生懸命描いた絵を「いつもありがとう」の言葉と共にプレゼントすると、「上手になったね」と言ってもらえたり、涙を浮かべながら喜んでくださる姿もありました。歌のプレゼントではたくさんの拍手をもらい、子どもたちもすごく嬉しかったようです。これからもおうちの方からの愛をたくさん感じながら、感謝の気持ちを大切に過ごしていって欲しいです。



ご挨拶

りっこう幼稚園PTA会長 戸村妃美

進級式、入園式より3か月が経ちました。PTA活動をおこなっていると子供たちが園生活を楽しむ姿を目にします。晴れの日でも雨の日でも、夢中になって遊んでいる子供たちから元気をもらっています。

保護者の皆様には子供たちの笑顔のために日頃よりPTA活動にご協力いただきありがとうございます。幼稚園のPTA活動が、保護者の皆様にとっても親睦とリフレッシュの場になることを願っています。

最近、ゆり組の息子のやる気スイッチが入ってきたようです。ひらがなを自分から書き始めたり、幼稚園のチャレンジコーナーで駒回しにチャレンジしたり、メンコ作りや縄跳びに夢中です。できなかったことがあってもあきら

めない気持ち。新しいことをやってみようというチャレンジする気持ち。先生や友達との関わりの中で育つ「ありがとう」と「ごめんね」の思いやりの気持ち。

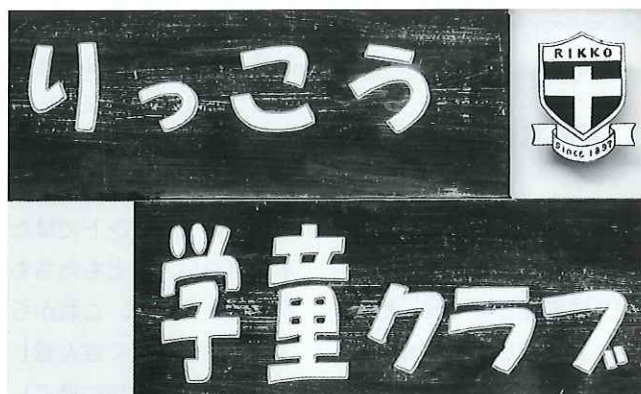
そんないろんな気持ちが育まれ、心も身体も急成長しているこの大切な時期に、りっこう幼稚園で遊び・学んでいることが、子供たちがこれから様々な経験をしていく際の礎となってくれ

たらいいなと思います。

週末になると「早く幼稚園に行きたい、幼稚園楽しい」という息子。親としては家庭での学びや遊びの場以外に、息子が大好きな場所があることに嬉しく思います。

子供たちを第一に考え、子供たちと先生方、そして保護者の皆様がお互いに楽しく触れ合える場が、温かく築かれたなあとこのごろです。





留学生による紙芝居

日本力行会の寮に住んでいる留学生に紙芝居を読んで頂きました。留学生は、日本の子どもと接する絶好の機会と捉え、忙しい大学での授業の合間を縫って学童クラブの子どもたちへの紙芝居の読み聞かせに積極的に協力して

くれています。

学童クラブのスタッフが日本語で読み、続いて留学生が英語で読むので、日本語と英語を交互に聞くことができ、子どもたちは「日本語のこの言葉は、英語でこうやって言うんだ！」な

どと新たな発見と出会いがたくさんあるみたいです。日常的に聞きなれない英語という言葉でも、子どもたちは興味津々に聞き入っていました。

留学生には、紙芝居を読んで頂くだけではなく、自分の母国の紹介もして頂いています。「私は、この国から来ました。」「世界地図ではここです。」など子どもたちにとっては知らないことばかりなので、「なにが有名ですか?」「日本からどのくらい飛行機で時間かかりますか?」「日本語はどのようにして覚えたのですか?」など多くのことを吸収したいという好奇心に満ちた質問をしていました。

英語や外国の文化に触れることは、とても良い経験になると思っています。これからも留学生の皆さんにご協力を頂き、子どもたちの記憶に残るような数多くの体験ができたらと考えています。



紙芝居を日本語で読む指導員(左)と英語で読む留学生(右)



宇宙ミュージアムTeNQ

7月8日に後楽園にある宇宙ミュージアムTeNQへ遠足に行きました。

子どもたちに、今度、宇宙ミュージアムTeNQへ行くんだよと言うと、「ど

んなところなの?」と尋ねてきたりして、宇宙のことに興味を持ち始めたので、学童クラブで宇宙に関する本や図鑑を買い揃えました。本や図鑑を見て

「土星の周りの環っかって氷なんだって~」「火星には昔、水がたくさんあったんだって~」などと教えてくれるなど、遠足に行くにあたって、事前に学習している子どももいました。

当日は天候にも恵まれ、電車に乗って行きました。今年2回目の電車移動だったので、電車の中では騒がないこ

とや歩く時は黄色い点字ブロックの内側を歩くなど、公共の場所でのマナーもきちんと守れて、感心しました。

宇宙ミュージアムTeNQでは、「はじまりの部屋」「シアター宙(そら)」「つながる場所」と呼ばれる3ヶ所が主に子どもたちの印象に残ったようです。

「はじまりの部屋」は、幅20m、高さ4.5mの大きなプロジェクションマッピングの映像を観る場所です。壁の中から宇宙服を着た宇宙飛行士が出てくる演出など子どもたちの興味が湧くようなものばかりでした。



月面で叫ぶ



火星のクレーターで

「シアター宙(そら)」では、直径11mもあるスクリーンが足元にあり、そのスクリーンを覗き込んで映像を観るといっても迫力のある場所でした。自分がまるで宇宙船に乗り、宇宙旅行をしているかのような体験ができ、独特の浮遊感も感じることができました。ここで土星の環は氷できているという解説を聞き、「学童の図鑑でも見た！知ってる！」と喜んでいました。

「つながる場所」とは、宇宙と自分とがつながる場所のことで、床に映しだされた月面の上を歩くと、自分の足跡を付けることができる場所や、巨

大な宇宙人と一緒に写真が撮れる場所もあり、子どもたちは大変興奮して「写真撮って～」と言ってきました。

帰りは、近くの公園でレジャーシートを敷き、青空の下で、お弁当を食べました。

遠足に行った7月8日はちょうど宇宙ミュージアムTeNQが開業して5周年の日だったので記念品も頂けてとても楽しめた遠足でした。



巨大宇宙人を背景に皆んなで記念撮影



公園でお弁当

「ウェルカム・パーティー」

3月30日(土)、午後12時～2時まで、ウェルカム・パーティーを開催しました。

当日は、アメリカ10名、中国10名、ブラジル8名、ベトナム7名、韓国3名、イタリア、ドイツ、ノルウェイ、南アフリカから各2名、オランダ、コロンビア、ジョージア、デンマーク、ボリビア、香港、メキシコから各1名と、日本語ボランティアの先生方と息子さん、お嬢さん、事務所職員7名の総勢72名が参加しました。

はじめに、事務局長からの挨拶、そして、課長よりアナウンスがあり、国別に舞台下に並び、恒例の各国語での乾杯の後、テーブルいっぱいに並べられた、お寿司、ピザ、唐揚げ、フライドポテトのオードブルやスナック菓子を、歓談しながら美味しく頂きました。

ゲームの時間になったので、テーブルの片付けを、皆にも協力して貰いました。

ゲームの説明をブラジル人のチェリーさんとラファエルさんより、日本語、英語でして貰い、じゃんけん列車ゲームをスタートしました。新しい会館生と、先輩会館生、ボランティアの先生方、お子様達と一緒に、自己紹介

を兼ねたゲームは、大盛り上がりで、段々と列が長くなって行き、勝者が決まったかと思った所、「私達は、まだじゃんけんしていません」との声があり、長い列のチームではなく、その2人だけのチームが勝ってしまったので、フェアではないとの判断をし、再度、ゲームを再開しました。2回目はフェアに、優勝者、準優勝者が決まり、1回目の準優勝者は、特別賞とする事

にしました。その3名に舞台上がりしてもらい、表彰式をし、プレゼントを渡しました。

最後は、記念撮影をし、閉会となりました。後片付けも皆で一緒にし、残ったお料理は、お土産に渡しました。

今回、ご協力頂きました、日本語ボランティアの先生、管理人ご夫妻、そして参加の皆様にご心よりお礼申し上げます。





力行国際交流サロン

「茶道交流会」

5月11日(土)力行国際交流サロンで、毎年、お世話になっている立教大学の5名の茶道部員の皆様にご尽力頂き、今年度は、春期にも恒例の「茶道交流会」を開催しました。

当日は、当会館・日本館の和室を会場に、サロンスタッフの空花様ご協力のもと、中国3名、ブラジル2名、イタリア、オランダ、コロンビア、ジョージア、ドイツ、ベトナム、香港、南アフリカ各1名の13名の会館生が参加しました。

お茶会は、2回に分けて行われ、各回共、食堂で受付後、茶室に席入りする形で、進行しました。急病と急用で不参加の人が1名ずついましたが、参加者は全員、時間前に集まり、スタッフの的確で迅速なご対応、茶道部員の皆様よりご丁寧で心温まるご指導を頂きました。

2回共、席入り直後は、少し緊張した空気が流れていましたが、お菓子とお茶を頂いた後からお茶を点てる体験

交換留学生の方々が日本文化に興味を持って下さっていることを近くで感じることが出来、とても嬉しく思います。

茶道を通して言語の壁を超えて楽しい時間を過ごせました。

立教大学 茶道部 蒲生理香子様より

今回の茶道交流会を通して、日本のお茶文化の素晴らしさを知ることができた。立教大学茶道部のみなさんは、茶道について丁寧に紹介してもらってすごく良い経験になったと思う。日本のお茶文化はマナーを大切に、相手を心からもてなすことが重要だ。それらのマナーはとても繊細で難しく、日本のお茶文化において一番奥深い部分だと思う。

茶道体験の中で一番印象に残ったのは、自分でお茶を作ってみたことだ。お茶作りは一見簡単そうに見えたが、実際に作ると割と難しいと感じた。お茶を作りながら、立教大学茶道部のみなさんにいろんなことを聞けてすごくよかったと思う。

NG, CHUN LONG SIMON
(早稲田大学大学院政治学研究科修士1年・香港)

の頃には、会場の雰囲気はとても和やかで、日本語、英語が飛び交い、楽しく交流する姿を拝見する事が出来、大変、嬉しく思いました。今回の参加者も、茶道や日本の文化に深く興味を持っている人ばかりで、退席後のアンケート記入が終わった後も、サロンスタッフに茶道や日本の文化や生活など、積極的に質問をしている姿が見られました。

今回の開催にあたり、お世話になった皆様へ、誌面にて、お礼をお伝えさせていただきます。今後共、温かいご支援の程、お願い申し上げます。又、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、立教大学茶道部の蒲生理香子様より頂きました感想と、参加の会館生NG, CHUN LONG SIMONさんより頂いた感想を、紹介させていただきます。



令和元年春の叙勲にて、 ブラジル・アルモニア学園の 和田理事長が叙勲

日本政府は5月21日、令和元年春の叙勲者を発表、ブラジルからは19名が受勲を受け、そのうち、当会の姉妹団体であるサンパウロ州サンベルナルド市にある「アルモニア学園」の和田忠義理事長が今回の叙勲を受けました。

「アルモニア学園」は戦後の日系子弟のサンパウロ市内での宿舎確保のため、力行会員有志の寄付により「サンパウロ学生会アルモニア寮」として活

動がスタートし、以後多くの有名日系子弟を輩出、最近では幼稚園から高校までを運営する一大総合学園として、非日系ブラジル人からもその教育方針に熱い信望を持たれると共に、帰国したデカセギ日系子弟のフォローにも力を入れています。

今回の和田理事長の叙勲を心からお喜び申し上げ、同学園のますますのご発展を祈念いたします。

(一財) 日本力行海外協会 解散のお知らせ

謹啓

新しい令和の時代を迎え、皆様方におかれましては益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

さて、私共一般財団法人日本力行海外協会は本年3月31日をもって解散の止むなきに至りました。これまで当財団にご指導ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

顧みますれば、当財団は昭和31年（1956年）財団法人日本力行会によって設立され60有余年になります。当初は、力行会事業の一翼を担い日本人の海外送り出しを推進し、その後は日本語学校を10年経営し、卒業生約500名が今や各地で活躍しております。

日本語学校廃校後は、内外の著名人を招いて、国際交流セミナーを30回余り開催したり、外国籍支援を続けてまいりました。

しかしながら、役員の高齢化、なり手不足それに収入の減少による資金難により、誠に残念ながら事業継続は困難になりました。

財団は解散しても、奉仕の精神は残り国際的な人材育成や国際文化交流が益々発展することを期待いたします。

まずは略儀ながら書中をもちましてご挨拶申し上げます。

謹白

令和元年（2019年）5月吉日

内閣総理大臣認証

一般財団法人 日本力行海外協会

理事長 久保田怜男

日本力行会機関紙「力行世界」
定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立122年を迎えました。「日本民族の霊肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理念をさらに発展させ、“世界と日本の架け橋となる人材育成”“海外同胞との連携強化”などの実現を目標に、留学生宿舎・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎え、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境づくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価格の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資力不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたいお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流にご関心を抱かれている方々へのご紹介も合わせてお願いいたします。

末筆に成りましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。

敬具

令和元年8月15日発行
年4回発行(1・4・7・10月)

発行

(学) 日本力行会

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikko@rikkokai.or.jp

ホームページ

<http://www.rikkokai.or.jp>